



01. VR 装置を体験する参加者。02. VR で表示されるバーチャル空間。03. 体験を基に、実際の道路を避難。

デジタル技術を活用 防災訓練や避難に活用

「いつか」という時に役に立つ防災情報

VRやARなど中央大と共同研究開発中

デジタル技術を用いた
防災訓練や避難支援の
システムを研究開発中

町ではVR（仮想現実）やAR（拡張現実）などのデジタル技術を使った防災訓練や避難支援のシステムの実用化に向け、4、5年前から、東京都の中央大学理工学部都市環境学科海岸・港湾研究室のありかた教授と共同研究で開発を進めています。

VRは、専用のゴーグルで360度の映像を映すことで、実際にその空間にいるような感覚を得られる技術です。現実には危険な災害や火災などを疑似的に体験できるため、防災分野での活用も期待されています。

このほど試作モデルが完成したこと、町民がV

R装置を使ってバーチャル空間を体験することで、実際に避難訓練に活用できるか実証実験を行いました。

VRを用いた訓練を実施

訓練は鶴殿地区で行い、地区外に住む20代〜70代の25人が参加しました。大地震が発生し、10メートルの津波が10分まで到達すると想定。役場防災拠点（約300メートル離れた地点をスタート）としました。

参加者はVR1回、VR3回、VRトレッドミル（屋内型のランニングマシン）1回などのグループに分かれ、ゴーグルを付け、実際に頭や体を動かして最適な避難経路を示す矢印に沿って仮想空間を移動しました。翌日に、実際の道路でゴ



ールを目指しました。

訓練を通して見えてきた
課題と今後の目標

VRを1回だけ体験したグループは、現実世界の避難では防災拠点以外を選ぶ人も多く、「映像にリアリティがなく現実とリンクせず、経路を覚えていなかった」などの意見がありました。VRを3回体験したグループは、前日の経路通りに避難し、「映像で見た景色を覚えていた」と話していました。

有川教授は「回数を重ねると効果がありそうなのが分かった。さまざまな意見を聞いて課題が見えてきた。これまでよりスピードアップして開発を進められると思う。できるだけ早く実用化を目指したい」と話していました。今後は、更に映像の精度を高めるとともに、津波の襲来やブロック塀の倒壊なども盛り込み、さらに実践的なシミュレーションができるよう改善していきます。また、ARを活用した避難支援アプリも並行して開発を進め、デジタルを活用した防災力向上につなげていきたいと考えています。

議会だより

令和6年 第4回定例会を開催

町議会では、令和6年第4回紀宝町議会定例会を12月10日に開会しました。

第1日目は、はじめに議長報告と各委員長報告、一部事務組合議会議員報告、続いて、町長から諸報告が行われました。

その後、第2日目にかけて一般質問が行われ、5人の議員が質問に立ち、諸課題について当局の取り組みと考え方を質問しました。

なお、今定例会では、右記の議案などを原案どおり可決し、閉会しました。

※議会の録画中継はスマートフォンなどで、町ホームページから視聴できます。

▶詳しくは、町議会事務局（☎33ー0342）までお問い合わせください。



町議会 HP



萩野 進也
副議長



向井 健雅
議長

可決された議案

- 専決処分の承認 1件
- 条例の改正 5件
- 町道路線の廃止 1件（16路線）
- 町道路線の認定 1件（25路線）
- 工事請負契約の変更 2件
- 令和6年度一般会計補正予算
- 令和6年度特別会計補正予算 5会計

一般質問 General question

※□内の数字は通告順



1
かわらだ のりやす
川原田 規泰 議員

- ①町の人口の社会増減の分析結果と支援制度
- ②地元企業への就職率の調査と今後の対策
- ③ITを活用した町の活性化
- ④「神内川」堆積土砂撤去
- ⑤紀宝熊野道路の進捗状況



2
すずき まなぶ
鈴木 學 議員

- ①熊野川河口大橋の完成・開通



3
はら の しろ
原 章三 議員

- ①少子化による学校・保育所・幼稚園運営
- ②マイナ保険証一本化と健康保険証の取り扱い
- ③防災対策
- ④道路上での動物との衝突対策



4
の けんじ
榎本 健治 議員

- ①祝開通新宮紀宝道路（熊野川河口大橋）と紀宝熊野道路
- ②自治体窓口DX「書かないワンストップ窓口」
- ③保育システムへのキャッシュレス決済機能の導入



5
ひらの みつこ
平野 美津子 議員

- ①防災対策
- ②きぼう健康ぶらざ

